

[4] 選択学習による実践

(1) 落ち着いた雰囲気の中でお茶を楽しみながら、主体性を育てることをねらった実践

〈茶道コース〉

① 取り組みについての基本的な考え

茶道は、日本の伝統的な文化であり、貴重な遺産である。落ち着いた雰囲気の中でお花をながめ、静かにお茶をいただき、言葉のやり取りを楽しむ。こんな一時を過ごすだけで心が豊かになる思いがする。また、茶道の基本となる「もてなす心」は、生活の広い部分で生かされ、生徒の心や暮らしを深く豊かなものにする要素を含んでいる。

茶道コースの生徒たちは、みんな人と関わることが好きである。しかし、様々な理由からうまく他人とのコミュニケーションをはかれない生徒が多い。この学習では、まず簡単なお点前や作法を少しずつ身につけていくことで、学ぶ喜びを感じ、自信をつけてほしい。そのなかで人との関わりを楽しみ、人をもてなすこと、人に喜んでもらうにはどうしたらいいのかを自分なりに感じ取ってほしい。そして、このような経験を通じて活動に主体的に取り組む態度を養っていききたい。

② ねらい

- ・学習の流れを知り、簡単な点前を身につけたり、場に合った行動ができるようにする。
- ・落ち着いた雰囲気の中でお茶を楽しみながら、自分たちが主体的に取り組もうとする態度を養う。

③ 指導の方針と手だて

学習したことを生活の中で生かすためにも、また将来の楽しみにつなげていくためにもお点前やお運びなど、茶道の基本的な所作を身につけることに重点を置いた。そのために所作をできるかぎり簡略化し、小さなステップを踏んでいくことで定着を図った。また、茶道の落ち着いた雰囲気を味わい、場に合った言動を心がけるために、場の設定に工夫をこらし、茶席らしさを演出した。普段の生活の場とは違うことを繰り返し意識づけ、具体的な指導を積み重ねながら、自分から進んで落ち着いて過ごそうと意識できるよう声かけをした。そして、主体的に取り組もうとする意欲を育てるためには、お客様をお迎えする時間を設定して、人に喜んでいただく充実感を味わったり、そのためにどうしたら良いか考えたり工夫したりする活動を組み込んだ。

以上のような方針を踏まえて、一年間の流れを次のように計画した。

○第1学期 「茶席での活動の流れを知る。」

- ・活動の場を和室に設定し、お釜、水差しなどの茶道具をしつらえて、茶席の雰囲気を演出する。
- ・お菓子が出されたら順に取りまわす、お茶を点てたらのむ人の所まで運ぶなどの流れを毎時間パターン化して繰り返し、役割を交代しながら全員で取り組む。
- ・お点前は、お釜の前に座ってお茶を点てるだけにして、お茶わんやお茶入れを運んだり、袱紗や茶巾をさばくことは省略する。
- ・正座しての挨拶、礼の仕方を繰り返し練習する。畳の上で座る位置、手のつき方、頭を下げる角度など細かいところまで指導する。

- ・場にふさわしくない言動については、毅然とした態度で指導する。

○第2学期 「身近な方をお客様に迎えてもてなす。」

- ・学習の後半に「お客様を迎える」場面を設定し、「おもてなし」を意識した活動を行う。その際、お点前やお運び、案内役などを全員が協力してするよう配慮する。分担については生徒の希望を尊重する。
- ・お菓子の盛りつけやお茶の仕込みなど、できるだけ生徒に任せるようにする。
- ・生徒の生けた花を床の間に飾り、雰囲気演出する。
- ・お点前の時、生徒の実態に応じて盆点前をやや簡略化したものに挑戦する。
- ・校外で催されるお茶会に参加し、本物の雰囲気を味わう。

○第3学期 「お茶会を開こう」

- ・役割を話し合い、お茶会の計画を立てる。
- ・自分の役割について、特に重点的に練習する。
- ・お客様に喜んでいただくためにどうしたら良いかを話し合う。

④ 指導の実際

上記の方針のもとに、「自分づくり」の3つの段階から生徒を取り出して、それぞれの段階に応じた支援の具体例を上げてみた。

| | 個人目標 | 支援（具体的な手だて） | 評 価 |
|------------------|---|---|---|
| K男 （自我の誕生の段階） | お茶を点てたり いただいたりする 中でのやり取り を楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・お点前を簡略化し、覚える部分での負担感を軽くした。 ・お茶席での決まった言葉について繰り返していねいに指導し定着を図った。 ・「おもてなし」の場面で「案内役」を設け、御客様を席までご案内することを役割とした。 | <ul style="list-style-type: none"> ・あまり細かい点にまで指導を加えなかったことで、自分なりの手順でお茶をのびのびと点てることができた。 ・慣れるにつれて、自分なりに省略したものではあるが挨拶の決まった言葉が言え、そのことで自信を持って活動に取り組めるようになって行った。 ・何度か繰り返すうちに自分から進んで「案内役」を買って出るようになった。とても楽しそうに取り組んでいる。 |
| B男 （自制心の | 人にお茶を点ててあげたり、お茶をいただいたりすることを楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教師が横で同じ道具を使って点前をすることで、手本を示した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・初めは、道具を持つ手や持ち方に混乱が見られたが、繰り返すうちに正しい方法が定着して行った。また、手本をまねることで、指先まで伸びたきれいな点前ができるようになってきた。 |

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| 形成の段階) | | <ul style="list-style-type: none"> ・自分からは手を上げにくい特性を持っているため、さりげなく合図や声かけをして、積極的に取り組むよう促した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動の前に、「誰がしてくれますか」とたずねると、手をあげることもあるが、そうでない場合も多い。したい活動とそうでない活動もあり、積極性という面では、不十分である。 |
| B子(自己客観視の芽生え) | <p>場の雰囲気を感じながら、お茶を点てたりお運びをすることを楽しむ。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や礼、立ち居ふるまいに重点を置いて繰り返し指導し、場の雰囲気を意識できるようにした。 ・一か月くらいのスパンで、お点前の手順を少しずつ増やして行き定着を図った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「そんなことをしたらおかしい」などと場に合うか合わないかを自分で判断して言えるようになってきた。また、友だちに対しても声かけをして注意を促すような行動も多く見られ出した。 ・着実に点前を覚えて行き、自信を持ってお点前できるようになりつつある。また、自分から進んでお点前やお運びをすることが多くなった。 |

⑤ 反省と今後の課題

茶道など全く経験のない生徒たちがどのように取り組んでいくのか、見通しが持てず不安混じりのスタートであった。しかし、生徒たちは予想したよりはるかに柔軟に新しい分野になじみ、対応していった。「静かに落ち着いて」、というのは苦手な生徒が多いのだが、回を重ねるにつれて、それなりに場の雰囲気に合わせて活動できるようになっていき、それとともに立ち居ふるまいも、場に合ったものになっていった。

茶道は、広く一般社会に浸透しているとはいえ、やや特殊な世界である。この学習が卒業後の趣味的なものへとつながって行くためには、在学中に一般の茶会を経験するなどして、社会の中での茶道にも触れる機会を多く持つ必要があるものと考え。加えて、例えば保護者の方をお招きして生徒主催のお茶会を持つなどして、家庭との連携も強めながら生徒と茶道とのつながりを強めていきたい。

生徒たちは、まさにお茶を楽しみながら学習している。自分なりの役割を果たし、時間ごとにお客様をもてなし、喜んでいただく満足感を味わいながら取り組んでいる。今後の取り組みとしては、少しずつ難しい点前に挑戦したり、茶道に関わるさまざまな知識を身につけていく一方で、「もてなす心」、つまり人に楽しんでもらうために人のことを思いやる心を育てて行き、日常生活の中でも生かせるよう学習を重ねていきたい。 (田中)



お客様のおもてなし

(2) 作品作りの喜びを通して、主体的に活動に取り組ませた実践<木工芸コース>

① 取り組みについての基本的な考え

木材は古来より建築をはじめとして什器、調度品など広く利用されてきた。現代社会の石油化学製品の進出で、以前と比べ格段に利用が少なくなってきたが、各家庭には木材を使った家具や机・椅子・棚など沢山利用されている。木材は種類も豊富で、価格も比較的安価で手に入れやすく、加工も金属やプラスチック等と比べると比較的容易である。工具や機械も正しい使用方法を学習すれば、安全且つ合理的に使用することができる。このような木材と木材加工の利点を考え、木工芸コースを設定した。

また、週休二日制の浸透で、今後ますます増えてくるであろう余暇をどのように利用するか考える時、基礎的な木材加工を体験し、その技術を生かし、物作りや修理することを生活の中に折り込むことで、より自分の生活を豊かにすることができる。さらに、学習を通して少しずつ作品が完成に近づく喜びを得させ、意欲的、主体的に学習に取り組めるよう、支援などの工夫をしながらこの学習をすすめている。

本コースの生徒は3名。1名は中学校の障害児学級出身で在学中、技術・家庭科の時間が好きで、木材加工を経験し、本コースに興味を持っている。他の2名も、鋸や金槌を使うことは好きで、木材加工の関心は高い生徒である。

② ねらい

- a 自分で考えて作品を作る喜びを通して、主体的に取り組む意欲、態度を養う。
- b 作品を作る過程の楽しさを通して、木材加工の基礎的な技術を身につける。

③ 指導の方針と手立て

第1学期は、木材加工の基礎技術の習得と、すすんで学習に取り組む意欲の掘り出しにつとめた。題材は、生徒が「できそうだな」と思える数個の角盆や丸盆を提示し、その中から、皆で見本を選び、大きさが中程度のシンプルなデザインの「角盆」を作ることにした。第2学期は、自分の作りたい作品を自分で決めて作ることにした。全員、実際に自分で使う実用的な作品を希望した。(CDケース、収納ボックス、椅子)

- a 自分で考えたり、選択する場面を多く設定する。
 - ・自分で作りたい作品を決める。
 - ・自分で作品の大まかなデザインをする。
 - ・自分で材料を選択する。
 - ・自分なりの工夫や、加工方法が発見できるように、試行錯誤ができる時間的余裕を保障する。
 - ・失敗をした時をとらえ、ただ注意するのではなく、なぜいけなかったか考えるようにする。
 - ・完成に近づいていくことがイメージできるように、毎時間の作業に区切りができるようにする。
- b 各工程の作業を自分の力で行い、手工具や木工機械を正しく使う。
 - ・説明、範示、手を添えての指導を折り込み使用法を身体で覚えるようにする。
 - ・生徒同士が加工法をお互い見る機会を設け、参考にし合う。

- ・いろいろな材料を準備し、実際に切断して練習する機会を多く持つ。
- ・正しく手工具や機械が使えた時は賞賛する。
- ・自分専用の鋸を決める。又自分の工具や作品の保管場所を一定の所に決める。
- ・工具や機械を自分なりの方法で使うことを認める。

④ 指導の実際

次に、木工芸コースの3名の指導の様子を述べる。

| | 目 標 | 支援（具体的な手だて） | 評 価 |
|------------------|---|---|---|
| C男（自己客観視の芽生えの段階） | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや感想を臆しないで発表する。 ・部材の加工に進んで取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・数個の盆を提示し、その中から自分の好きなものを選択できるようにした。 ・底板は6枚の杉板を準備して、その中から自分が一番気に入った板を選択した。 ・木取りでは、中を切り取った画用紙を準備した。 ・側板・底板の研磨では、木片やサンドペーパーの番数の違うものを準備し、必要に応じて選択できるようにした。 ・始めは粗目のペーパー、仕上げは細か目のペーパーを使うように、手でペーパーの目を確かめてから作業をした。 | <ul style="list-style-type: none"> ・最もシンプルな屋久杉の角盆を選択できた。木目の美しさが良いと感想を発表することができた。 ・一部割れがあるが、木目がきれいな板を選ぶことができた。画用紙を杉板の上で動かして自分の好きな木目の所を選んでけがきをすることができた。 ・ペーパーを木片に巻いて研磨することができた。側板の溝に底板がきちんとはまるのを確認した時うれしそうな表情をみせた。 ・底板の裏、表をペーパーを代えて研磨することができた。底板の両端、両横は、粗目のペーパーを使って研磨できるようになった。 |
| H男（自己客観視の芽生えの段階） | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや意見を進んで発表し実行する。 ・自分で工夫して部材の加工や組み立てをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・底板は曲がったもの、反ったもの、割れがあるものを混ぜて6枚の杉板を準備した。 ・側板と底板は少し余裕がある方が組み立てやすくなると助言した。 ・側板・底板の研磨では、木片やサンドペーパーの番数の違うものを準備し選択した。 ・組み立てでは、接着剤を接着面の両面に適量つけ、はみでた接着剤は必ずふき取るように助言した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・曲がったもの、反ったもの、割れがあるものは避け、水平で木目の良いものを選ぶことができた。 ・底板の端を工作台からはみ出すようにして置き研磨できた。時々側板の溝にはめて、余裕を確かめながら研磨できるようになった。 ・サンドペーパーを「このペーパーの方がいいですか」と確かめて使い分けをすることができた。 ・始め、刷毛で接着剤をつけていたが、「手でしてもいいですか」と質問し、自分の指で適量つける事ができた。接着剤のはみだしは釘を使って工夫してふき取れた。 |

| | | | |
|---|---|---|--|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">V男（自己客観視の芽生えの段階）</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・人の意見に左右されないで意見を発表する。 ・一つひとつの作業を確実にする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2学期からは、自分の作りたい作品を作ることにした。 ・構想の参考に、種々なデザインの椅子が載っている本を準備した。 ・丸鋸での切断では、角材、板、合板を準備し、十分な練習の時間を保障した。実際に木片が飛び散るところを見せ危険な所に立たないこと、絶対刃に手をもっていかないことを徹底した。 ・角盆の組み立てでは、ビニール紐と麻紐を準備して、実際にどちらが結び易く締まり易いか、範示用の部品を使って試した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・しばらく考えたが、自分の考えがまとまらず、宿題となった。次の時間に、「椅子」が作りたいと発表できた。 ・本の中の例から、角材で作る踏み台兼用の椅子に決めることができた。 ・始め、丸鋸の回転音に恐怖を感じ、尻込みをしていたが、自分の番になると、勇気をふるいおこして挑戦できた。何度も練習するうちに、正しく扱えば、安全に作業できることが分かり、進んで加工できるようになった。 ・締まり易い麻紐を選び、角盆の角の所で結び、組み立てる事ができた。しかし、なかなか、きつく結ぶ事ができず、何度もやり直しをしたが、途中で投げ出さず、いやな表情を見せる事もなかった。 |
|---|---|---|--|

⑤ 反省と今後の課題

生徒は、自分の作りたい物が作れるという期待感を持ってこのコースを選択した。この思いは、学習に主体的に取り組む原動力になる。従って、指導者の押しつけはできるだけ控え、伸び伸びと活動できる雰囲気作りにつとめた。その結果、生徒は、学習に主体的に関わり、準備、後始末も自分から進んでできるようになってきた。丸鋸の使用で、始め恐くて尻込みをしていた生徒も、正しく取り扱えば安全に使えることを知った。完成した「角盆」を持って茶道コースに出向き、自分で作った「角盆」を使ってもらって、お茶のもてなしを受け、自分が作った「角盆」が実際に使われる所を見て、満足感を味わうことができた。



側板の切断作業

しかし、時折、危険なこと、手を抜いた作業態度が見られ厳しく注意せざるをえない場面も見られる。生徒の気持ちや思いを最大限尊重しながらも、真面目で真剣な作業態度が自然に身につくように、支援の工夫を重ねていかなければならない。

技術面では、少し高度なものに挑戦した。始めできなくても、努力してでき上がった時の満足感が深くなれば、それだけ次への期待感もふくらみ、意欲的になるからである。そのためには、指導者の材料選定の目や、加工法、加工技術の広範囲な知識・技能が必要であり、更に研鑽し、新しい支援の工夫をしなければならない。

（川本）